



ABCプロジェクト/ミニセミナー③ ABC5 報告会（第2回）Zoomセミナー

- =====
- 日時：2020年5月23日（土） 18時00分～19時00分
 - 場所：Zoom WEB会議システム
 - 講師：桜井なおみ氏（キャンサー・ソリューションズ株式会社）
- =====

<本セミナーのテーマ・目的>

2019年11月にポルトガルのリスボンで開催された国際シンポジウム「ABC5」の概要や目的、そこでのセッションの様子などを報告する会の第2回目。今回は、セッション終了後に開催されたワークショップについての報告と、ワークショップを通じて世界のABCを医療者・患者支援者などと立場を越えて皆で一緒に考えていきます。

<主な内容>

- ABC5 報告会(第1回)の振り返り
- ワークショップ（医療者・患者支援者などグループに分かれてのディスカッション）
- ディスカッションの結果を全体で共有
- 本セミナーのまとめ
- 今後のセミナーのご案内

■ABC5 報告会(第1回)の振り返り ABCは患者ファーストのシンポジウム

キャンサー・ソリューションズ（CANSOL）の『ABCプロジェクト』では、転移性乳がん患者さんの理解を広げるために「知る」「つながる」「集う」という3つの柱に沿って医学教育・啓発を展開しています。

そのきっかけは、現在も治療中のメンバーと共に働き、そして一緒に働きながら旅立っていった仲間を見送ってきたこと。「孤独を感じる仲間を1人でも減らせるよう、1人でも多くの仲間に“ひとりじゃないよ”というメッセージを送りたい」気持ちからスタートしました。ABCとは“Advanced Breast Cancer”の頭文字で、これを名称とした“国際シンポジウム”がポルトガルの首都・リスボンで開かれています。その活動のネットワークを日本にも広げていくため、立ち上げたのが『ABCプロジェクト』です。

ABCのシンポジウムは2011年から2年に1度のペースで開催されており、第5回となった昨年の詳しい内容は、前回のミニセミナーで紹介しました。他の学会と比べると会場など規模こそ小さいも

の、1500人の参加者が94か国から集う大きなイベントとなっています。
最大の特徴と言えるのが「テーマの良さ」で、患者さんがメインとなるセッションが半分以上を占めている点です。これは、患者さん自身がテーマを考えているため、その時々で「患者さんが知りたい・情報がほしい」と思っているテーマが用意される、患者さんと医療者が“一緒に作り上げていく”シンポジウムと言えます。通常の学会では新しい研究成果が次々と発表されますが、ABCのシンポジウムでは患者さんが日常で直面する“補完代替医療”など、「科学的根拠に基づくものだけではない、いろいろな議論」がされています。

■ワークショップ（医療者・患者支援者などグループに分かれてのディスカッション） それぞれの立場からABCへの思いを議論

昨年のABCのシンポジウムでは、各種のセッションは1～3日目で終わり、4～5日目にワークショップが行われました。内容は、ABCが掲げる『ABC GLOBAL CHARTER（これからの転移治療の10か条戦略）』の中から、自分たちが3年以内に達成したい項目3つを選ぶというもので、参加者が小さなグループに分かれて議論しました。

『ABC GLOBAL CHARTER』は日本語に訳すなら、「これからの“転移性乳がんの治療”を考えていく時の10か条」。ABCのワークショップにならい、Zoomセミナーの参加者も『ブレイクアウト機能』を活用して9つのグループ（A～I）に分かれ、それぞれ10分くらいの話し合いで3項目を決めます。各人が自身の立場や役職に縛られることなく自由な発言ができるよう『チャタムハウスルール』が適用され、「発言は所属・肩書を背負うものでなく、あくまで一個人としての思い」であり、「それを外に漏らすことないよう守秘義務の厳守」がアナウンスされました。



（これからの転移治療の10か条戦略：ABC GLOBAL CHARTER）

■ディスカッションの結果を全体で共有 当事者としての要望と医療者・企業としての使命

Zoomの『ブレイクアウト機能』を使ったワークショップを行いました。その後、各グループの結果を全体で共有しました。

Aグループ：

「3項目をえらぶことが大変な作業で絞り込むのが難しかった」とのことから3・5・7番と、さら

に「3番ときっ抗した10番は外せない」と4項目を挙げました。

Bグループ：

「最終的にはムリヤリ選んだ感じ」として、4・5・7番を支持。皆が口をそろえたのが4番で、「1つの科では収まらない治療を一緒に進めるにはコミュニケーションが切り離せない」とコメントしました。

Cグループ：

4項目に分かれたところから1・3・7番を選びました。中でも3番は「生き切りたいと願う患者さんにとって、いちばん大切」で、生活のすべてを治療に費やすわけではなく、QOLを高めることは「患者さんだけではできず、まわりのサポートが必要」になると強調されました。

Dグループ：

「3項目だけに決めるのはムリヤリ感」があり、議論となったものの最終的に6・7・8番に決まりました。4番も外せないという声もありましたが、地方などチーム医療を組むことが難しいケースもあって下げたとのこと。

Eグループ：

全員一致の3番と、次の4番以外は同等に意見が割れて2項目となりました。再発10年以上の方もおり、「治療が長引く中で増えていく不調は見逃されがちで、診療を受ける科目が増えていくのも非常にしんどい」ため、チーム医療への期待が述べられました。

Fチーム：

それぞれの取り組みから選ばれた1・5・10番が挙げられました。「話し合う時間が少ない」との指摘もありましたが、職場の中で「専門分野の支援を深めていきたい」という熱い思いが伝えられました。

Gグループ：

選ばれたのは3・7・8番。中でも「7番を強化することで、3・8番にも貢献できる」との意見があり、看護師の立場として「患者さんだけでなく、ご家族を含めたケアを強化したい」との案が出されました。具体策として、病院以外の“地域に出向くサポート”の可能性が語られ、「医療の専門知識を持つ生活の支援者という視点」が提案されました。

Hグループ：

1・6・8番が選ばれました。情報の整理・提供、啓発活動は「私たちだからできる」部分とし、“治療成績2番”は「目指すところとしてチャレンジしたい」と意気込みが語られました。

Iグループ：

1・3・7番が選ばれました。「治療中のQOL維持を前提に、患者さんの声が反映された創薬をする」ため、求められているQOLを理解できるよう「患者さんと膝をつき合わせた語り合い」の必要性が指摘されました。さらに7番には、「8・10番など多くのことが含まれ、多角的なサポートを目指せるのではないか」との意見も出されました。



（各グループからの提案）

■本セミナーのまとめ ABCプロジェクトでの達成目標は

全グループからの発表が終わり、投票の結果から『ABCプロジェクト』として、達成目標の3項目を決めます。断然トップと言えるのが同率の3・7番で、次に票が分れたのは5・8番。

“日本での3か条”は、「3.患者の“QOL”を高める」「7.治療以外の場面で“生活・社会的サポート”を充実させる」「8.ABCに対する社会への“啓発活動”を行い、スティグマや疎外感を減らす」とし、これを基に「コンテンツやセミナーを用意したり、皆さんと一緒に詳細な具体策を議論したりする」など、次への展開が示されました。

そして、ABCシンポジウムでの結果も紹介されました。選ばれた3項目は3・4・9番で、「4.“チーム医療”で心理社会を含めた“集学的ケア”を受けられるようにする」も異なりますが、特に「9.経済力には関係なく、治療への“アクセス性”を確保する」という部分について補足されました。参加国の中には、途上国の方も多く、「治療自体が受けられない、早期発見を啓発する段階、転移すると家庭や村に居られない」などの現状を浮き彫りにする結果でもあります。



（ABCシンポジウムで選ばれた3か条）

また“アクセス性”については、ABCでも「毎回、必ず話し合う重要なテーマ」となっています。それは、Fatima Cardoso医師（Zoomセミナー②ABC5報告会（第1回）参照）が幼少期をポルトガル植民地時代のモザンビークで過ごしたことに起因するもので、「途上国にいるABCの仲間を置き去りにしてはダメ」という思いが込められているのです。

世界に目を向けると、「日本が恵まれていることを実感するものの、まだまだ進んでいない部分」もあります。私たちを取り巻く環境が変化する中で、“個人の支出と国の支出(負担と給付)” “先進国と途上国(医療の差)” など「バランスを考えることが大切。それは国内だけでなく、困っている隣の国やアジア全体と、広い視野をもって」考えて行くことが提案されました。

■今後のセミナーのご案内 今後のセミナーにも、ぜひ参加を

次回以降のZoomセミナーは、ABCの支持療法として『心理支援』と『口腔ケア』などのミニセミナーを予定しています。

『心理支援』：講師の先生は転移性乳がんの患者さんでもあり、心の整え方など、いろいろなことを語り合えると思います。開催は7/18(土)18時からで、すでに応募が可能です。

『口腔ケア』：特に治療中の副作用として口の中にもトラブルが起きやすく、しっかりとしたケアが必要となります。しかし、具体的な方法など分からない方も多く、かかっている病院に歯科の連携が無い場合もあるため、このセミナーでいろいろと質問してもらいたいと思います。

また、「アフラック運営の“がん患者向けコミュニティサイト”『トモスノート』にステージⅣのスレッドを作っているほか、体験談を書きこんで共有できる『エピソードバンク』の構想もあるので、ぜひ参加して下さい」。

ライター：さかい ようこ

31歳で初発の診断を受け、術後9年6か月の検診で転移が見つかる。以後、さまざまな投薬をつなぎながら、今年の夏でABC歴も丸9年。仕事では、寄る年波か…全盛期を過ぎた感は否めないものの、まだまだ現役！ 月1の診察も、なんとか「安定」継続中。